

ふれいす 東京

Positive Living And Community Empowerment Toky

Contents

「世界の潮流と『鎖国』 日本」.....	1
「エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ」活動報告会.....	2
ふれいす東京 新人ボランティア合同研修会.....	4
部門報告 (2008 年 7 ~ 9 月).....	5
年末年始のお休みについて.....	8

「世界の潮流と『鎖国』 日本」

東京大学医科学研究所教授 厚生労働省エイズ発生動向委員会委員長
岩本 愛吉

2008 年 8 月 3 日から 8 日まで、メキシコ市で第 17 回国際エイズ会議 (AIDS2008) が開催された。主催者の国際エイズ学会 (International AIDS Society: IAS) の発表によれば、参加者はメディアを含め 24,000 人にのぼった。IAS は現在 (1) 北アメリカ、(2) ラテンアメリカとカリブ海、(3) ヨーロッパ、(4) アフリカ、(5) アジア太平洋の 5 つの地域で構成されているが、ラテンアメリカ地域で初めて開催された会議である。国際エイズ会議は近年イベントとしての色彩が強くなり、新しい研究成果を発表する場ではないとして敬遠する基礎研究者や臨床家がいるのも事実である。しかし、つい先日ノーベル医学・生理学賞を受賞したフランソワーズ・バレ・シヌシ教授の座長で、基礎研究、リーダーシップ、アクティビズムの一線の人たちが一緒に話すセッションなどは、国際エイズ会議以外ではほぼあり得ないだろう。

国際エイズ会議の開会式には、メキシコの大統領や国連、WHO、UNAIDS の事務総長らが出席し、国際的な発信の場として利用されている。ブッシュ大統領は 7 月 30 日、メキシコでの国際エイズ会議に合わせたように、大統領エイズ救済緊急計画 (PEPFAR) の継続を含む世界基金への支援や HIV 陽性者の渡航制限の撤廃を盛り込んだ法律にサインした。国際エイズ会議は、1989 年のサンフランシスコ以来米国で開催されていないが、ワシントンでの開催を期待する声が会期中に急速に持ち上がった。伝聞によれば、今回日本からの参加者は約 40 人だったとのことだ。地球の反対側だったとしてもちょっと寂しい。国際エイズ会議は参加費も高額で、開催時期も夏の旅行シーズンで割高である。個人負担で参加するのは厳しい。次世代を含め、日本から幅広い分野の人々が参加できるような支援策が組まれることを期待したい。

メキシコから帰った翌月、厚生労働省の依頼によりビエンチャンで開催された WHO 西太平洋地区の HIV 対策担当者会議に出席した。カンボジアやラオスといった国では、HIV 対策担当の顔が見えることに今更ながら感銘を受けた。

日本の現状を外から見ると、ほとんど国の顔が見えていないと思う。鎖国状態と言っていいと思う。森首相の頃、沖縄サミットで世界基金の基礎を作り、小泉首相、福田首相の時に日本の拠出金は増額されたが、サミット向けで世界基金だけへの貢献という感が否めない。資金的な国際貢献と JICA による実際の国際活動、WHO や UNAIDS における日本の貢献との関連が見えないばかりでなく、国内と国際的な活動の脈絡が感じられない。国内を見ても予防活動、検査、診療、疫学、研究などの連携が悪く、総合的な対策がとられているとは言い難い。大きな経済成長が期待できず、この国のシステムが制度疲労に陥っている現在、HIV 対策の中での個別的な予算組みが縦割りの弊害を増強しているのではないのか。

日本では、HIV は汚染血液製剤による多数の血友病者の感染として登場した。カミングアウトした人々を中心に、命をかけた彼らの闘いにより、医療対策に関して前向きな成果が得られた。現在国内で抗 HIV 療法が普及しているのはそのおかげである。しかし、その後次第に国内で増大する流行に対しては、対策が功を奏する間もなく、待ったなしの状況まで来てしまったように思われる。日本を取り巻くアジア諸国でも、HIV は流行様式を複雑化しながら拡大している。2004 年以降台湾が経験したような急展開は、どこでも起こりうる事態と考えておかなくては行けない。HIV に関わる個人や組織が自らの信じるところに従って垣根を越え、国内外のネットワークを作っていくしかないのではないだろうか。

UNAIDS の設立時から 12 年間事務局長を務めてきたピーター・ピオットが、今年でその職を去る。ピーターは今回たびたび壇上に上がり、世界が HIV/AIDS 対策を重要視し続けるよう訴えた。レゲエのクラシック、ボブ・マーリーの一節 “Get up, stand up: stand up for your rights!”、と歌った。HIV に関して、個人の信念に沿った活動、アクティビズムが今求められていると思う。

「エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ」活動報告会

エイズ予防のための戦略研究 MSM 首都圏グループ（研究リーダー：市川誠一）の2007年度までの活動に関する報告会が、7月11日に新宿文化センターにて開催され、100名にもおよぶ参加者（来場者84名、演者9名、会場スタッフ7名）がありました。

「いち演者の『リアリティ』」

（財）エイズ予防財団 流動研究員／ぶれいす東京
岩橋 恒太

「エイズ予防のための戦略研究」は、2006年度から2010年度まで5ヶ年継続する予定の厚生労働省のプロジェクトで、そのうち、MSM 首都圏グループはぶれいす東京、RainbowRing、JaNP+の3団体を中心に活動してきている。今回の報告会は、2007年度までの、MSM 首都圏グループの活動報告として行われたものだった。

報告会当日は7月の猛暑日にもかかわらず、100名もの方々に参加していただいた。会場には、首都圏の行政のHIV担当部署、HIV診療の拠点病院や保健所、検査・相談機関、ク



報告会の会場

リニック、HIVに関連する支援団体や当事者団体などからの参加者がいらしていた。また、首都圏以外の地域から駆けつけてくださった方々もいらっしゃった。

一方、私たち登壇者のほうも豪華なメンバーでお送りした。研究リーダーの市川誠一先生を始め、RainbowRingから佐藤末光さん、張由紀夫さん、JaNP+から長谷川博史さん、ACCから高野操さん、そしてぶれいす東京からは生島嗣さん、砂川秀樹さん、矢島嵩さん、岩橋がそれぞれ、このグループで担当するものを発表した。私自身はこのゴールデンメンバーの末席で、グループの運営するwebサイト「HIVマップ」について発表させていただく機会を得た。

3時間を越える報告会の内容は、てんこ盛りだった。約2年分の活動報告を行うのだから、当然ともいえる。

自分の発表の順番を待つ緊張のさなかでも、各氏の熱のこもった発表はどれもとても興味深い内容に感じられた。特に、啓発事業に関する張さんの発表が私には印象に残っている。昨年（2007年）に作成した冊子『REAL』を始めとする、MSMとHIVのリアリティを伝える様々な美し

い資料の紹介を聞きながら、一つひとつの資料を生み出すのに長い時間をかけて行った喧々諤々のミーティングを思い出していた。

「ヴィジュアルにこだわることに同時に、丁寧に伝えることも大事にしよう。」これもまた、張さんをはじめ、戦略研究のメンバーと話してきたことだ。各氏がそれぞれ考えや想いを、言葉を尽くして伝えた今回の活動報告会は、そのことを意図して企画していたものだった。その効果なのか、報告会の後、例えば「HIVマップ」の意義に賛同していただいて、お持ちのwebサイトにリンクを貼りたいと連絡をくださる方々が増えている。戦略研究の輪が、少しずつ広がりとある。

丁寧にHIVをめぐるリアリティを伝えていく活動は、細かい作業の果てのない繰り返しに思えることも時にはあったりする。それでも、戦略研究の輪がじわじわと広がっていく実感は、手を動かし続けて待つことの大事さについて学ぶ機会を与えてくれた。待つことが苦手で、欲しいものがあると夜中の3時だろうが「ドン・キホーテ」に車を走らせてしまう私にとって、これは大変な変化だと思う。

MSM 首都圏グループは活動報告をひとつの節目に、現在また次の段階に差し掛かっている。「面倒」なくらい真面目に議論してきたMSM 首都圏グループが、HIVをめぐるリアリティに基づいて次に何を提案できるか、ぜひみなさんと協力しながら考えていきたいと思う。

参加者より

「活動報告会に参加して／学んだ／感動した／ちょっと心配した」
円山 てるる

日本でも、ここ数年、HIVの予防啓発が盛んになりました。報道では、陽性者の増加が繰り返し指摘され、必ず男性同性間性的接触による陽性者が高率であると付け加えられます。それを聞いたヘテロの人々は、どう感じるのか——油断したり、「ゲイ／MSM＝HIV」といった偏見を強めるのではないかと、当然、熱く向き合うべきテーマなのですが、もう一つ、決して捨て置けない実態があるのですね。

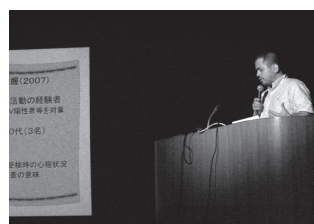
7月11日の「エイズ戦略研究」活動報告会を取材して、僕が改めて衝撃を受けたのは、HIVについての正しい情報



研究リーダーの市川誠一氏



首都圏グループが行った啓発活動や様々なツールを紹介する張氏（右）と長谷川氏。



MSMの検査への反応について報告する砂川氏



「MSM 首都圏グループのねらい」を発表する生島氏

が、いまだ届かないゲイ／MSMたちがおられる事実です。届いているのに忌避するケースや、実態の高を括っている場合もありましょうか。

僕の周りには問題意識を持つゲイが多いので、つい僕は拡大解釈し、大抵のゲイ／MSMなら、HIVについて、ある程度は正確な情報を掴んでいると思い込みがちでした。しっかり考えておけば解ることでしたが、世の中にはいろいろなゲイ／MSMがおりましょし、もとより生活を置く環境や地域などが千差万別なのですね。

「エイズ戦略研究」が、HIV 検査受検者数の倍増と、エイズ発症者数の四分の一減を目標に据え、システムティックな活動を継続していることを、僕は頼もしく感じます。対策は講じられ、実践され、具体的なアクションは邁進します。それでも、正しい情報が届いていない人々が、きっと僕らのそばにもおられるだろうと、留意しなくてはなりません。

たとえ自分自身が難しさに直面しているわけではないとしても、一人でも多くの人々が、HIV の予防／検査／医療／支援や、僕らが共有すべき「現実＝REAL」について触れること／知ることができるよう、互いに認識を深め合い、協力をし合って、日々を送らなくてはならないのです。それが、「すべての人が HIV とともに生きている」「HIV を持っている人も、そうじゃない人も。私たちはもう、いっしょに生きている」—— LIVING TOGETHER の“優しい思想”だと、僕は理解しました。

「エイズ戦略研究」の活動報告会は学術的な研究発表の色が濃かったので、同研究が運営しているウェブサイト『HIV マップ』についての報告に接したとき、僕は比較的、親近感を抱きました。帰宅して、さっそく「HIV マップ」にアクセス。サイト内を巡っているうちに、「何としても、難しさに直面した人々を救いたい」というスタッフの方々の熱情が真っ直ぐに伝わってきて、僕は深い感動を覚えました。

『REAL・LIVING TOGETHER』に掲載された陽性者たちによる手記—— HIV／エイズを巡るありのまま——僕たちの REAL に、各自それぞれの立ち位置からアクセスし、共有することには、大きな意味があると、僕は学びました。

「エイズ戦略研究」は、厚生労働省の予算事業として政府が携わっていることは確かですが、政府サイドの意欲に、「ゲイ／MSMにとってこそ深刻な問題だ」という空気や、肝心な事柄の処理を当事者サイドに丸投げしているような印象を感じないわけでもありません。

もっと、政府が明確な HIV／エイズ予防政策を表明した上で、たくさんの予算をつけ、ゲイ／MSM の当事者を、政策の末端にではなく中枢に据えるなど、一層、本腰を入れた対策を講じるべきで、さもないと、事態がなお悪化したとき、アクションそのものが息切れをしてしまうのではないかと、僕は、ちょっとだけ心配をしています。そのことを、最後に付け加えておこうと思います。

MSM 首都圏グループ 2007 年度活動報告会に参加して

東京都福祉保健局健康安全部 感染症対策課エイズ対策係
主任 與田 愛子

東京都の HIV 感染者・エイズ患者報告数は、全国の約 1/3 を占めており、なかでも同性間の性的接触による感染は依然として増加傾向にあり、東京都のエイズ対策において MSM に対する施策は大変重要であるといえます。

報告会プログラム

- 「2007 年度活動報告会を開くにあたって」
市川 誠一(名古屋大学／エイズ予防のための戦略研究 研究リーダー)
- 「首都圏における MSM を対象とした戦略研究のねらい」
生島 嗣(ぶれいす東京)
- 「首都圏における MSM 向け検査環境について」
佐藤 未光(RainbowRing)
- 「インタビューから見える、MSM の検査への反応」
砂川 秀樹(財団法人 エイズ予防財団)
- 「検査受検者数調査等について」
高野 操(財団法人 エイズ予防財団／エイズ治療・研究開発センター)
- 「web サイト「HIV マップ」について」
岩橋 恒太(財団法人 エイズ予防財団)
- 「HIV マップ「HIV お役立ちナビ」の構築とねらい」
矢島 嵩(ぶれいす東京)
- 「首都圏 MSM グループの啓発事業について」
張 由紀夫(財団法人 エイズ予防財団)
- 「多言語プロジェクトについて」
長谷川 博史(日本 HIV 陽性者ネットワーク・JaNP+)
- 「2008 年度の首都圏における戦略研究について」
市川 誠一

MSM といっても、年齢も職業も様々です。さらに、ゲイタウンに出向く人、出向かない人、インターネット上のみでの出会いを求める人等、様々な層に分けられます。それぞれの層に情報を届けるには、それぞれの実状やニーズ等を把握したうえで、対象にあった啓発キャンペーンを行っていくが必要になります。また、同時に MSM がより検査を受けやすい体制の整備、受検・受診にいたる段階で不安を払拭するための相談体制の確立が欠かせません。しかし、そのための MSM のニーズの把握や分析は、行政のみで行うことは難しく、戦略研究班や NPO、NGO 等と協働して対策を進めていくことが重要だと感じました。

今回、報告会に参加させていただき、研究の全体像を把握することができたことはとても有意義だったと思います。予防啓発はその効果の測定が難しく、戦略研究班の評価の手法等は大いに参考になるものでした。

また、「HIV マップ」、「HIV お役立ちナビ」については、利用者の視点を活かした様々な工夫がほどこされており、我々が今後の情報発信のあり方を考えるうえで多くのヒントをいただきました。利用者が必要としている情報を受け取りやすい媒体、ビジュアル、言葉で提供するという、利用者本位のサービスが求められているのだと改めて感じます。

報告会のなかでは様々な啓発手法、啓発資材が紹介されましたが、個人的には、CoCoLo cafe で開催されたランチョンマットとコースターのキャンペーンが心に残りました。日常



さまざまな啓発活動やツールを紹介

のさりげないひと時にふと目に入るもの、そのデザインがよければ目に留まり読んでみたくなります。ただ一方的にこちらの思いを伝えるのではなく、受け手側が受け取りやすい情報発信をしていくことが大事なのだと思います。

今後も、NPO 等団体やコミュニティ、医療機関、行政等、それぞれができることを連携して、取り組んでいくことが最も効果的な啓発へつながっていくのだと痛感させられる報告会でした。

ふれいす東京 新人ボランティア合同研修会

2008年度の新人ボランティア合同研修が、豊島区立生活産業プラザにて、9月7日のオリエンテーションに引き続き、同14日、23日、28日の3日間行われ、17名が参加・修了しました。

毎年9月のふれいす恒例の各部門合同の新人ボランティア研修会を今年度も開催しました。気がつけば今年で7年目、毎年募集しているので、いつも人が集まるか？もう集め尽くしたのでは？という不安が担当としてはあるのですが、今年もオリエンテーションに30名を越える申し込みがあり、研修に17名の参加がありました。HIV/AIDSに対する社会的な関心は低くなる一方で、まだまだ関心をもってくれている人がいることは驚きでもあり、うれしくも感じます。

今年は、例年に比べ参加者は少なめでしたが、人数が少ないぶん、お互いの顔がわかる距離感でもあり、多様な年齢、セクシュアリティ、社会的背景をもつ参加者同士の交流が十分にできたようにも感じられました。

今年も研修は3日間、朝10時から夕方5時まで、みっちりのスケジュールで進行、しかも内容は当然のごとくラーメンでいえばとんこつ風といえますが、かなり濃いめの味付けになっていたのも、参加者の方にとってはしんどい1日だったと思うのですが、みなさまいかがだったでしょうか？

印象的だったのは、ワークショップをもっとしたい！とか、時間が足りない、とか、グループでの話し合い・意見交換を積極的に楽しんでいた方の声が多く聞かれ、楽しみながら参加いただけたようにも感じました。



ロールプレイでのひとこま

ともあれ、参加者のみなさまお疲れさまでした。また、協力いただいたスタッフの面々もお疲れさまでした。

さて、研修が終わり、これからがある意味本番でもあります。各部門での研修、ミーティング等に参加し、活動中のボランティアとも交流しながら、徐々に自分のペースを作ってもらい、これから細く長く息の長い、活動を続けていただければと思います。また、活動中のスタッフも新人スタッフとぜひ交流して、フレッシュな力を吸い取り、もといお裾分けしてもらい、これから一緒にふれいすの活動を支えていただければと思います。みなさま、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(文責:牧原)

「合同研修の感想」

やすし

研修って「教えてもらう場」だと思ってた。この3日間は、「不足している知識やスキルを補う場」だと期待しつつ、気合い入れてノートを新調して会場入り。でも、そんな僕の勝手な期待はまんまと裏切られた。

「知り得る限りの性行為の名称を紙に書き出せ」など、僕

らに次々と予想外のタスクが課されるグループワーク。「これが何の役に立つの？」と初めは戸惑い、でも気付くと全力で取り組んでいた。講師や参加者の声に夢中で耳を傾けながら、



セーフセックス・リスクアセスメント・ワーク

いつの間にか必死で自分のことも語ってた。ノートには知らなかったいくつかの用語を書き留めたけど、それ以上に、書き切れなかった言葉がたくさん僕の心と頭に残った。

人間相手の活動である以上、単純な「あるべき像」なんてものではなくて、各々の立ち位置で、各々の自己流でやるしかないんだと分かった。不足は自分で感じ、自分で埋めるしかないんだと知った。3日間は怒涛のように過ぎ、後からジワジワ効いてくる感じ…。これがこの研修での大きな収穫。

「研修参加の感想・感じた事」

松本 優子

9月の計3日間の研修を終えて、私が一番感じたこと、「しんどい。たいがい。」

他人と関ったり、話すのがそんなに苦手ではないのだが、他人を通して自分の価値観を見直す必要があると感じたり、自分以外の人を受け入れる努力を強いられるのが苦痛になったことも度々だった。

研修の中でも印象に残っているのは上杉鷹山についての話（池上代表）と矢島さんの話。前者では昔の人に学ぶことは多いということ、時代は変わっても人を支えたり傷つけるのは全て人ということ、そんな原則を改めて理解した。矢島さんの話は、「そうは言っても、HIVって発症したら死んじゃう病気なんじゃないの」という私の経験と価値観を少し方向転換してくれた気がした。矢島さんの話を聞いて経験に裏打ちされた自信は自分の財産、そしてこれからはそんな財産を有効活用しつつ、人から得られる様々な知識や考えをどんどん吸収して、今まで以上にパワーアップしたいな、と感じた。

研修を終えて、実践でたくさん失敗をしてよりパワーアップできるように、がんばりすぎず活動していきたい。

「研修を終えて思うこと」

根本 美香

研修の中で、HIV陽性の方達が書いた手記を読む機会がありました。性と深く関係する感染症だけに、生命の問題が倫理の話にすり替わってしまうから…文字の裏側から伝わってくる思いに、医学的治療だけでなく、社会的な治療こそ必要なのだと改めて感じました。HIV感染者や

AIDS 発症者の方々は、病気と闘っています。家族にも告白することが出来ない孤独や、社会からの疎外感と闘わなくてはならないはずなのに。

「参加することに意義がある」という時代は終わりです。医療従事者や NPO/NGO 団体の中だけで循環している「意識」の風が、私たちの身近な世界に吹き込み続けられたい。1 人 1 人はちっぽけな存在ですが、私たちは、そのためのボランティア員なのでしょう。人それぞれ出来ることは違いますが、「研修」という形で受けた風をただ受け止めるだけではなく、大切な家族や友人と同じ風を共有するための扉になることができればと、心から思います。

	9 月 14 日 (日)	9 月 23 日 (火 / 祝)	9 月 28 日 (日)
	グランド・ルール	グランド・ルール	グランド・ルール
午前	社会的な背景 池上	医学的基礎知識② 性感染症の基礎知識 福原	HIV 感染後の生活と 社会サービス 牧原
	休憩	休憩	休憩
	医学的基礎知識① HIV の基礎知識と 検査法 福原	セクシュアリティの 多様性について 砂川	ピア・サポートの 取り組み 矢島
	昼食	昼食	昼食
午後	エゴグラムと 交流分析 野坂	セイファークセックス リスクアセスメント 生島・スタッフ	ブライバシー について 池上 LivingTogether の取り組み 生島
	休憩	休憩	休憩
	手記を読むワーク スタッフ	相手のある保健行動 ～コンドーム使用と 使用依頼～ ①ワークショップ ロールプレイ ②講義 池上	振り返り 今後の活動について
	振り返り	振り返り	

部門報告

(2008 年 7 ～ 9 月)

ホットライン

エイズ電話相談 (ぶれいす東京および東京都委託)

◆ホットライン部門・活動状況 () 内は出席人数

7 月	11 日	東京都電話相談連絡会 (1 名)
	20 日	世話人会 (4 名) スタッフミーティング (16 名) 有志昼食会 (5 名) カマササイズ (8 名)
	8 月	8 日 東京都電話相談連絡会 (3 名) 17 日 世話人会 (5 名) スタッフミーティング (14 名) 27 日 HL 部門・新人研修見直しの事前打合せ (2 名) 30 日 HL 部門・新人研修見直しの打合せ (5 名)
9 月	7 日	合同研修オリエンテーション (2 名)
	12 日	東京都電話相談連絡会 (4 名) 記録票改訂の打合せ (2 名) 東京都ボランティア講習会 「保健所の検査 / 戦略研究について」 (7 名)
	21 日	世話人会 (8 名) スタッフミーティング (16 名) シフト担当引継ぎ (4 名) カマササイズ (7 名)
	28 日	合同研修 3 日目 (2 名)

◆相談実績報告

—ぶれいす東京エイズ電話相談—

	7 月	8 月	9 月
日数 (日)	4	5	4
総時間 (時間)	16	20	16
相談員数 (延べ人)	4.5	5	5.5
相談件数 (件)	37	43	51
うち (男性)	34	33	45
(女性)	3	10	6
(不明)	0	0	0
(陽性者)	2	1	2
1 日平均 (件)	9.3	8.6	12.8

—東京都夜間・休日エイズ電話相談— (委託)

	7 月	8 月	9 月
日数 (日)	12	15	12
総時間 (時間)	36	45	36
相談員数 (延べ人)	26.5	34	27.5
相談件数 (件)	248	289	230
うち (男性)	203	238	209
(女性)	42	49	20
(不明)	3	2	1
(陽性者)	1	2	3
1 日平均 (件)	20.7	19.3	19.2

ぶれいす東京の相談件数が、この3ヶ月の中で急増しましたが、東京都は大きな変動はありませんでした。また陽性者からの相談も安定してありました。最近相談で気になるのは、思い通りの回答を得られないと、クレームをつけてくる相談者の存在です。スタッフ間で話し合っていきたいと思っています。(報告:佐藤)

Peer Empowerment Program

◆ミーティング他活動状況 () 内は出席人数

8月 28日 セミナー打ち合わせ@新橋 (3名)
9月 7日 合同研修オリエンテーション@池袋 (2名)
9日 講師との打ち合わせ@銀座
(2名+対馬さん、五十嵐さん)
27日 セミナー打ち合わせ@池袋 (3名)
28日 合同研修@池袋 (3名)

◆セミナー報告

9月27日に、ふぉー・ていで、20～30代女性を対象にしたセミナー第3弾『オトナの女的セーフセックス講座～今さら人に聞けないエイズ基礎知識～』を開催しました。私たちの世代で、実はちゃんとエイズについて学校で習ったことない。エイズって知ってるようだけど本当はよくわかってない。そんな今さら人に聞けないエイズの基礎知識をお勉強しよう! ということで企画しました。

講師は、いつもお世話になっているウィミズ・ウェルネス銀座クリニック院長の対馬ルリ子先生。エイズとはなんぞや?という医学的なことやその他のSTDについてもお話していただきました。

講義の後は、リスクアセスメントのワークショップ。いつものセックスをセーフセックスにするにはどうしたらいいかをみんなで話し合いました。問題意識を共有することも大切だけど、現状を変えるための方法論を女性たちで考えていくことが必要。それこそがエンパワーメント。参加人数は8人と少なかったものの、それが実感できたセミナーでした。

カラダやセックスのセミナーに比べるとエイズに対しては意識が低いからなのか、集まりが悪い。でもPR方法を試行錯誤しながらも、今後も定期的にエイズをとりあげて同世代の女たちに発信していきたいです。(報告:いみ)



後半のワークの様子

バディ

陽性者のための直接ケア・派遣プログラム

◆バディ担当者ミーティング参加スタッフ数 (第1木曜 11:00～、第3木曜 18:30～)

7/3 中止 7/17 4人
8/7 中止 8/21 7人
9/4 中止 9/18 4人

※ 個別のミーティング (7月～9月) 7件

※ 第1木曜日の午前のミーティングについて、参加者が少なく中止になっているため、11月と1月は試験的に土曜の午前に開催予定。今後のミーティングの日程が下記に変更になっています。ご確認ください。(ケースを持っているバディのみ参加可能)

午前ミーティング 11:00～13:00
11/1 (土) 12/4 (木) 1/10 (土)
午後ミーティング 18:30～20:30
11/20 (木) 12/18 (木) 1/15 (木)

◆利用者数

12カ所の病院に通院中、もしくは入院中の24名の方にのべ32名のバディスタッフを派遣

◆活動内容 (2008年9月末現在)

派遣継続中	20件
在宅訪問	12件
病室訪問	3件
在宅の電話のみ	2件
派遣休止	3件

◆派遣終了 1件 (クライアントの死亡)

◆新規派遣 3件

◆7月～9月の派遣調整 5件

◆バディの現場から

3月から始まった1件の派遣が、クライアントの方が亡くなり終了しました。難しいケースで短い期間ではありましたが、バディが関わったことで生まれた変化も見られ、派遣の意味が感じられたケースでもありました。

また、新規派遣が3件、1件が短期の派遣、残りの2件が継続的な派遣や関わりの活動になっています。昨年度の研修を終了したバディも含めて多くのバディの方に協力いただき、なんとか調整ができています。皆様ありがとうございます。ミーティングも上記にあるように、開催日を変更するなど、できるだけ参加しやすくなれば、と考えておりますので、ぜひミーティングに参加いただき、ケース報告をお願いできればと思います。よろしくをお願いします。

なお、11/3 (月・祝) にバディ・ワークショップを開催し、また新しいメンバーも続々と活動に加わっていく予定です。人数不足もあるのですが、これからもみなさんの力を借りながら、バディ派遣をしていきたいと思っています。(報告:牧原)

ネスト

陽性者とパートナー・家族のためのスペースとプログラム

◆ネスト利用状況

	オープン日数	延べ利用者数	(うち新規)(*ファシリテーターなど)	
7月	28日	170名	(7名)	(8名)
8月	20日	99名	(7名)	(5名)
9月	24日	149名	(4名)	(4名)

(*はファシリテーター、web NEST 運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者)

◆カフェ・ネスト

7月: 5回 61名
8月: 3回 29名
9月: 4回 51名

◆ピア・グループ・ミーティング (PGM)

・新陽性者 PGM 第41期 (参加者5名) 7/5 (修了)
・新陽性者 PGM 第42期 (参加者6名)
8/23 9/6 9/20
・陰性パートナー・ミーティング 7/12 (4名) 9/13 (5名)

・ミドル・ミーティング

7/12 (3名) 8/9 (5名) 9/13 (7名)

◆ミーティング(陽性者メンバー、ぶれいす東京スタッフほか)

・新陽性者 PGM ファシリテーター・ミーティング

7/7 (5、6)

・web NEST 運営委員会

7/24 (2、2) 8/28 (2、2) 9/25 (2、2)

◆ネスト・ニュースレター

7/24 7月号発行

8/25 8月号発行

9/17 9月号発行

◆毎週水曜日はカフェ・ネストの日

カフェ・ネストがオープンして2年半。もうすっかり定着した感がありますが、創意あふれるボランティア・スタッフお二人と、その日に訪れる方々で、毎回ちがうあじわいのカフェになっているようです。web NESTにボランティア・スタッフからのメッセージを掲載しているのでご覧ください。

<http://web-nest.ptokyo.com/nest/cafenest-aisatsu.htm>

なお、12/24(水)のカフェ・ネストはお休みとなります。どうぞよろしくお願いいたします。(報告:はらだ)

Gay Friends for AIDS

ゲイによるゲイ・コミュニティ向け活動

<http://gf.ptokyo.com>

◆Gay Friends for AIDS 電話相談

7月 6件(平均1.50件)

8月 8件(平均1.60件)

9月 8件(平均2.00件)

◆東京レインボー祭でのキャンペーンに参加

8月10日に開催された東京レインボー祭の会場にて、“REAL”の新しいロゴが入ったうちの配布など、キャンペーン活動に参加しました。規制が厳しく例年に比べて短時間のイベントとなりましたが、幸いにもお天気には恵まれ、ブルーのうちのが新宿二丁目界隈のあちこちで振られていました。

◆今年も展示イベントを開催します！

昨年に引き続き、今年も新宿二丁目コミュニティーセンターaktaとCoCoLo cafeの2つの会場で展示イベントを開催することが決定しました。

aktaでは11月25日(火)から12月7日(日)までの2週間、CoCoLo cafeは12月の1ヶ月間の展示を予定しており、現在Gフレスタッフはその企画・デザインの最終段階に入っています。詳しくはホームページなどでお知らせしますので、ぜひお越しください。

また、本イベントに合わせ、新しい陽性者の手記集も刊行予定です。ぜひイベント会場でお手にとりてご覧ください。(sakura)

HIV陽性者への相談サービス

◆相談実績 2008年7～9月

2008年	7月	8月	9月
電話による相談	47	35	55
対面による相談	52	25	46
E-mailによる相談等	88	76	65
うち新規相談	14	13	11

※メール新規は含まず

◆7～9月の新規相談者の属性(N=38)

陽性者: 28人(男性: 26 女性: 2 その他: 0)

パートナー(元): 2人(男性: 1 女性: 1)

家族: 0人(男性: 0 女性: 0)

友人/知人: 2人(男性: 2 女性: 0)

その他: 2人(男性: 2 女性: 0)

専門家: 4人(男性: 2 女性: 2)

※専門家は団体職員、保健師、行政職員

◆7～9月新規相談者の情報源(N=38)

WEB(携帯含): 16件

他の陽性者: 5件

電話相談: 5件

パンフレット等: 3件

以前から知っていた: 2件

保健所/検査所: 1件

クリニック医師: 1件

病院医師: 1件

MSW: 1件

友人: 1件

職場: 1件

不明: 1件

◆7～9月の新規相談内容

【ミーティング/ネスト利用等】

- ・SNSで知り合った陽性者にネストを紹介された。
- ・PGMへの参加は仕事との調整が難しい。
- ・カフェ・ネストを利用してみたい。
- ・たんぽぽを見た。PGMへの参加を希望。
- ・相談できるところを知りたかった。知人の陽性者に紹介された。
- ・病院でばったり元恋人にあい、ネストを紹介された。
- ・感染を知り3年たった。医師から最近、この団体のことを聞き、来てみた。
- ・他の女性にも会いたい。
- ・パートナー。直接ミーティングに来てみた。
- ・(関西)東京にくる用事があったので、ネストを覗いてみた。

【検査や告知】

- ・検査を受けたら妻がスクリーニングで陽性だった。
- ・保健所で検査を受けたら、判定保留だった。思いあたる行為がない。
- ・海外で検査を受けたら陽性だった。日本語で説明を受けたかった。
- ・陽性の告知を受けた。ねほりはほり聞かれて、不愉快だった。
- ・月に一度、検査を受けていた。今回は陽性だった。
- ・冗談半分で検査をしたら陽性だった。
- ・保健所で感染が判明。医療費、保険など、いろいろ聞きたい。
- ・性感染症を治療中に医師から勧められ、陽性だと判明した。

【人間関係】

- ・これまで、人間付き合いが狭かった。すこしネットワークを広げたい。
- ・服薬の検討時期にきている。医療者以外の意見も聞きたかった。
- ・夫から感染の事実を聞いた。様子がこの1週間変だった。
- ・医学関連の企業に勤務している。会社で薬を床に落としてしまい、上司に見られた。
- ・最近感染がわかった。子供との同居は、大丈夫だろうか。
- ・既婚者。最近男性とセックスをしはじめた。妻へのカミングアウトが不安。
- ・同居者がラジオで検査の情報を聞き検査をしたら陽性。同居は問題ないか？
- ・海外から帰国する知人がいる。国内でも自費で治療できるのか。

- ・専門職のため、ネットワークが狭くなりがち。職業別ミーティングに関心がある。

【医療など】

- ・服薬開始から3ヶ月。医師には、あまり聞きたいことが聞けていない。
- ・肝炎で入院中の検査で陽性と判明。拠点病院に転院したが、不信任が拭えない。
- ・病院の人たちは話しにくいと感じている。

【生活や福祉】

- ・MSWの紹介で電話をしている。生命保険の契約更新について聞きたい。
- ・マンション購入を考えているのだが、団体信用保険などへの加入が必要。
- ・仕事がないし、お金もない。鬱もあって、生活保護の方もなかなか受けてくれない。
- ・経済的な理由で治療中断。就労が継続できない、生活保護を申請したいが医師と意見があわない。

【就労】

- ・団体の職員。告知をした陽性者が、会社に告知したら解雇された。
- ・障害者枠での就職活動をしている。何か気をつけることがあるか。

【専門家】

- ・団体の職員。来日中の外国人が入管に拘束中。治療が受けられない状態。
- ・精神障害がある人の在宅支援について、職場の同僚から聞いたので、電話した。
- ・保健師と生活保護担当とが連携しながら対応している。パディについて知りたい。

(報告：牧原 / 生島)

研究部門

厚生労働科学研究費補助金

◆今年度より始動した「地域における HIV 陽性者等支援のための研究」 (研究代表：生島 嗣)

- ・国立精神・神経センターの和田清さんの研究班による 8 月 22 日 (金) の全国ダルク施設長研修に協力。
- ・HIV 陽性者の支援に携わる地域支援者 (ソーシャルワーカー等) を対象にグループインタビューを実施。
- ・陽性者へのインタビューによる事例を収集。
- ・牧原の分担研究では、ぶれいす東京の相談記録のためのフォーマットの開発作業中。
- ・新陽性者 PEER Group Meeting の効果評価アンケートを検討。
- ・埼玉県立大学の若林チヒロさんの分担研究では、全国の中核・ブロック拠点病院などの協力のもと、HIV 陽性者の生活と社会参加に関する全国調査を 11 月より開始予定。
- ・杏林大学の太木幸子さんの分担研究では、全国の保健所保健師のインタビュー調査を実施中。

- ・チャームの青木理恵子さんの分担研究では、大阪地区での相談サービスの立ち上がり事例の収集。

エイズ予防財団 研究成果発表会

【大阪】

11 月 28 日 (金) 13 時～15 時に、大阪国際交流センターにて、第 22 回日本エイズ学会サテライトシンポジウム「関西地域における HIV 陽性者の支援を考える：HIV 検査から HIV 診療の間にある支援ニーズとその課題～現場からの報告～」を開催予定。

【東京】

2009 年 1 月 21 日 (水) 13 時～16 時に、新宿文化センター小ホールで、HIV 陽性者の就労と社会参加をテーマにしたシンポジウムを開催予定。詳細は web のお知らせをご覧ください。
(報告：大槻)

エイズ予防のための戦略研究 (研究リーダー：市川誠一)

◆MSM 首都圏グループ

- ・各種資料 (10 代、聴覚障害者、依存、多言語等) を各グループとのコラボレーションにより、啓発用冊子を作成。
- ・携帯電話対応の web サイト「HIV マップ mobile」を、「HIV お役立ちナビ」の内容強化を中心に 10 月下旬にアップグレード。
- ・保健所職員等を対象とした研修会を実施中。東京都 (6/2, 10/24)、神奈川県 (10/3, 10/27)、千葉県 (10/31)。
- ・上野のゲイバーママを対象とした、タウンミーティングを 11 月 13 日に開催。
- ・携帯電話アンケートを 7～9 月に実施 (サークル系「Prelude2008、SMASH 杯」と Living Together 計画)、合計で約 420 件の回答を得ました。12 月にはクラブイベントを対象とする啓発、クラブキャンペーンを実施。



「HIV マップ mobile」の QR コード

(報告：岩橋)

◆MSM 京阪神グループ「陽性者サポートプロジェクト関西」

- ・陽性者サポートライン関西 電話相談実績 (7 月 8 件、8 月 5 件、9 月 2 件)。
- ・関西地区での新陽性者ミーティングのための準備会が発足。
- ・東京での PGM の取り組みについてオブザーバーとして振り返りに参加。
- ・地域支援者のためのカンファレンスを 10/26 に、大阪市北区保健所を招いて開催。

(報告：生島)

【年末年始のお休みについて】

ぶれいす東京事務所／ネストともに
12 月 27 日 (土) から 1 月 4 日 (日)
お休みさせていただきます。



■編集後記■

- ・パソコンに向かう時間が多く、何かしら疲れるみたいで…竹布 T シャツ、レイキ etc でセルフヒーリングな日々です (こんどう)
- ・ぶれいす東京事務所に、HIV 検査の結果通知前の人たちから、電話がかかることがある。それは、結果を受け取った後に、利用可能な支援サービスを確認するかのようだ。(いくしま)
- ・北風が強くて寒かったり、小春日和だったり、寒暖の差が大きな季節です。事務所の中には、T シャツに裸足の人から、コートとマフラーをしたまま仕事をしている人までいます。人体の不思議？ (やじま)

編集・発行：特定非営利活動法人 ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-22-46 ザ・テラス 204

TEL : 03-3361-8964 (月～金 12:00～19:00)

FAX : 03-3361-8835

E-mail : info@ptokyo.com

ぶれいす東京 HP : <http://www.ptokyo.com/>

Gay Friends for AIDS : <http://gf.ptokyo.com/>

web NEST : <http://web-nest.ptokyo.com/>